



2005年1月31日
交通政策審議会
港湾分科会 第5回環境部会

海辺の自然体験活動 と 港湾

オーシャンファミリー海洋自然体験センター
海野 義明

海

遊



岸

育



海洋環境教育 三宅島で ジャックモイヤー博士が 開始



海辺の自然体験学習のうち最も
環境学習効果の高い、スノーケリ
ングでの海中生物観察を主体に
活動。



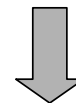
平坦で浅い海で練習



プールで練習

自然体験学習 スノーケリング

[港湾に期待]



- ・安全に、集中して練習するための、静かで、足元が平坦な海が必要。
- ・港湾内に練習区域が必要。
外洋が荒れていても港湾には静か。
- ・荒天時や小さい子の練習にはプールがあると効果的。

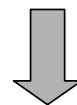


生物多様性

魚を観察し、調べる学習は
面白く、興味や学習意欲が増進。

魚をはじめ生き物が観察できる
豊かな生物相が必要。

[港湾に期待]



- 自然を残す
- 環境保全
- 自然度が低ければ自然再生

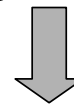




室内プログラム

- ・海辺で、船を作ったり、工作、実験ができる、実習室があると良い。
- ・魚を観察し、調べる学習室があると良い。
- ・海藻おしばづくりやマリンクラフトなど雨天プログラムが室内でできると良い。
- ・集合したり、講義をしたり、暑い日ざしを防ぐ施設があると良い。

[港湾に期待]



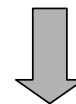
実験実習講義室を有する、施設があると良い。



港湾内プログラム

ヨット、セイリングボード、シーカヤック、カヌー、ローボート、カッター、和船櫓漕ぎ体験等

[港湾に期待]

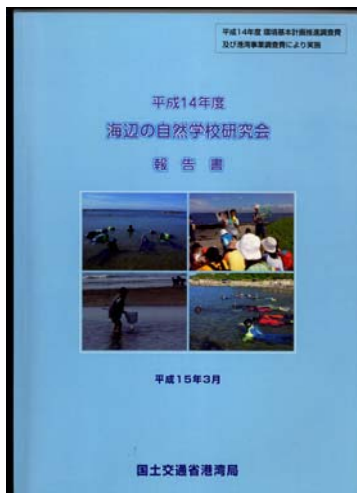
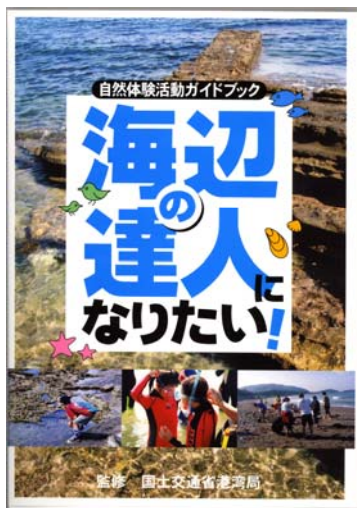


- ・マリーナ施設だけでなく練習海域が必要。
- ・外洋が荒れたとき、初心者が練習をするとき、平穏な海水面ああると良い。
- ・艇庫が必要。



港湾において 海辺の自然体験活動・ 環境教育に取り組む意義

- ①港湾を利用した自然体験活動や環境教育を導入する。
- ②施設の質を向上させ、ニーズへの対応を図る。
- ③施設の有効活用のためのソフトを充実させる。
- ④地域の主体との連携体制をとる。
- ⑤地域社会発展のために港湾の機能や資源、人材を活用する。



安全

指導者

楽しく





海辺の自然体験活動活動・ 環境教育を推進するための 取り組み

□「海辺の自然学校」の展開
(館山市、下田市、筑前大島等)



□「海辺の達人要請講座」の開催
(三浦半島、知多半島、大隈半島、
下北半島、東京湾、沖縄)

親子海辺の自然体験教育



海辺の自然体験活動・環境教育

□海は安全管理のために、参加者の人数に対し指導者の数が多く必要。例えばスノーケリングでは子ども2から4人あたりに指導者が2名以上必要。

□指導者の熟練に時間がかかる。

□海の活動団体は小さい規模が多く、資金不足。

□このため、助成、寄付は必須。

☆助成金制度：例

WAVE港・海辺活動振興助成



干潟観察会

「海で遊び学び育てる 連絡会議」



「環境保全・環境教育推進法」
(人材認定登録制度)
重要:安全管理

海・遊・学! 創刊号 vol. 1 2003.1.15発行

海辺の達人たちによる「海で遊び・学び・育てるための情報誌」

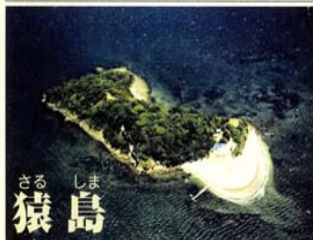
海辺からのメッセージ

日本の海岸線は、約3万5千kmにも及ぶ世界有数の長さです。流水の海からサンゴ礁の海まで、レクリエーション、スポーツ、自然体験などができる素晴らしい海が身近にあります。

また、日本には、国際貿易港から地域の産業や生活を支える港まで1,088もの港があります。そして港の中にも人工物だけではない貴重な自然環境が残されています。

こうした海辺と触れ合う体験によって、子ども大人も海を楽しみ、海のおもしろさ、すばらしさ、大切さが再認識され、海と人、人と人とのより良い関わり合いが受け継がれていければと考えます。

小誌「海・遊・学!」は、このような考えのもと、海で「遊び」「学び」「育てる」をキーワードに、「海辺の体験スポット」「海辺の達人たち」「海辺での遊び方・学び方」をより多くの皆様にお届けしていきたいと思ひます。これから永らく、どうぞ宜しくお願いいたします。



海辺の体験スポット

第1回 猿島 (神奈川県横浜横須賀市)

海辺の体験スポットでは、遊び、自然体験活動、環境学習などのフィールドとして、以外に知られていない穴場や、各地の身近な海辺をご紹介します。



東京湾に残るただひとつの自然の島

猿島は、東京湾で唯一の自然の島です。横浜市中心部の沖合い1.5kmほどに位置しています。無人島ですが、朝から夕方まで、1時間毎に渡船が往來してあり、気軽に訪れることができます。

東京湾も、ここまで南に下ると水質は良好で、猿島は海水浴や磯遊び、魚釣りの穴場の存在です。また、タブノキが生い茂り、昆布や野島、草花などの生き物たちの宝庫でもあり、さらには「海に浮かぶ小さな森」といった感じがあります。

しかし、猿島は、移住まで一般の人が立ち入ることのできない軍の要塞でした。その歴史は、黒船が砲撃を始めたのは幕末の頃にはさかのぼります。江戸幕府は、海上防衛のため、日本で初めてのお台場と呼ばれる砲台を、猿島の中に3ヶ所建設し、黒船に対する守りを固めたのです。その後も、明治から昭和の終戦まで、「要塞の島」としての歴史を刻んでいます。明治時代には、日本では珍しい「アラスカ横断レンガ」の要塞が築かれ、今も、往時の様子を見ることが出来ます。

- データ: 面積2.1ha、外周1.6km、東西200m、南北400m、最も高い所が約15m、周囲を約1kmの浅瀬が囲まれています。
- アクセス: 三ツ石渡頭の渡船から徒歩で10分程度。渡船 (往復) 大人1,000円、子ども600円。運転手料等のお問い合わせは猿島渡船 (TEL: 0468-257144) まで。
- 開島時間: 2月1日～10月31日、毎日10時～16時。11月～1月31日は、毎月第1、3日開島。雨天は開島中止 (12月、1月、2月は開島中止)。開島時間内は、渡船料は無料です。開島時間外は、渡船料は有料です (TEL: 0468-411333) の上乗りで1,000円 (税別) に開島。
- ホームページ: www.city.yokohama.kanagawa.jp/seaside/



■磯場に生息するヒシキベラ



■今も残るレンガ造りの要塞跡

(資料提供: 横浜横須賀市)

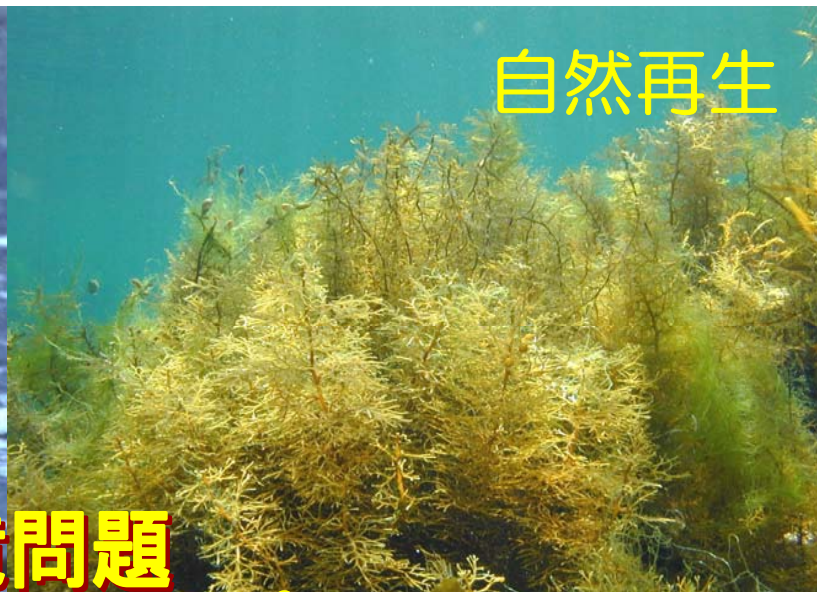
仮称
海に学ぶ
自然体験活動
協議会
Marine Activities Council
(MAC)

指導者育成・認定、海辺の安全管理
普及啓発活動、保険制度
ネットワークの確立、会員団体への支援
研究調査、ニュースレター・メールマガジン

ゴミ問題

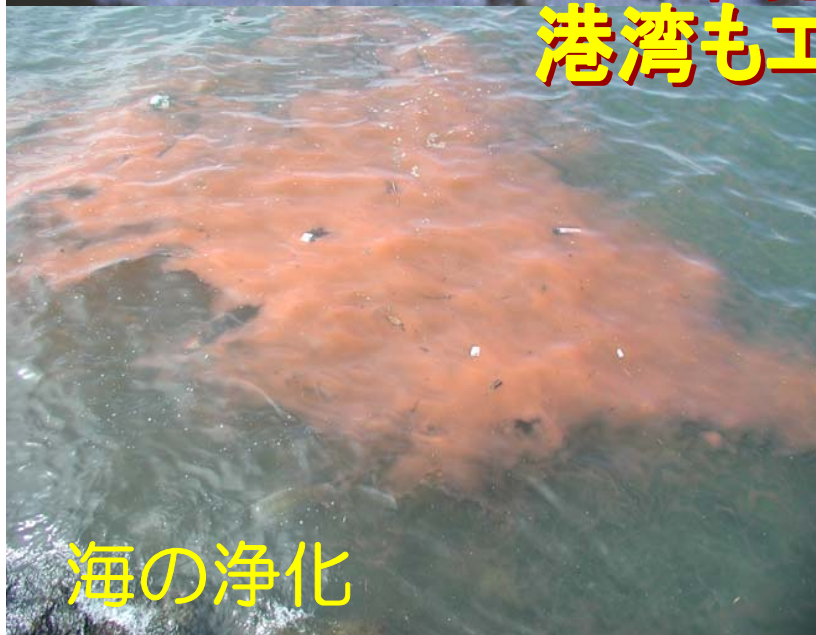


自然再生



環境問題
港湾もエコアップ

海の浄化



環境保全



港湾及び行政へのお願い

港湾の利活用



□港湾の印象

無機質的・危険・立ち入り禁止・経済活動の場で遊ぶところではない

□港湾の利点

平穏な海面・航海の基点

□港湾に期待したい施設整備

講義室、実験実習室、更衣室、休憩室、トイレ・シャワー、駐車場、スロープ、ラダー、スノーケリング練習区画、シーカヤック練習区画、ディンギ練習区画、マリンレジャー・スポーツ安全実技講習施設等

□港湾に配置したい港と海のインタープリター、自然体験指導者指導者



海への扉
ソフトとハード

価値⇔利活用
海辺のワイズユース

人⇔海
環境教育
海辺の環境
形成

